『臨界期』をのがさない教育を

’19 年度

中学受験予備校

WiLL 受講ガイド

- ジュニアカリヨン　（年中・年長）
- シニアカリヨン　（小１・小２）

幼児・小学生の基礎能力開発	ジュニアカリヨン	（年中・年長）
	シニアカリヨン	（小１・小２）
中学受験予備校	ＷｉＬＬ	（小３～小６）

良いことも悪いことも、ほとんどの種は幼児・小学生の時にまかれます。後戻りできません。



〒790-0011
松山市千舟町4丁目3－9　ワシヤビル　2F
TEL　089-987-6162
FAX　089-987-6163

1

中学受験予備校 WiLL の考え方・目指すもの

● 社会の構造・価値観が変わり、多くの分野で、これまで通用していた考え方や手法が破綻し役に立たなくなっています。人口増加・自然破壊・温暖化・食糧不足・高齢社会・・・ 問題は地球規模で溢れ出しています。

● 社会が求める人材のあり方もまた大きく変わろうとしています。自らが課題を見つけ、自ら学び、自らの力で問題を解決できる「考える力・生きる力」を持った人材が必要とされています。既に私たちの社会や産業界は、正確に多くの知識を記憶するだけの暗記型の人間を求めてはいません。より良い成果を得るために、経験や知識を組み合わせ、最良の方法・答えに至り、その方法・答えを相手に正しく伝え、問題を解決していく。そんな人間こそが未来を切り拓き、生き抜けるのです。「生きる力」を備えた人と言えるのです。

● 『学習』という場で、その「生きる力」を養えるよう子ども達をサポートしていくことが、私たち民間教育に携わるものの役目であると考えます。
知識だけに頼らず、経験だけでない伸びやかな発想や豊かな思考力を正しく育ててほしい。さらに、まわりの人を思いやり、人の気持ちを理解しようとする心も育ててほしい。「学ぶ」ということは、それぞれの子供にとって、自らの未来 (将来) に向かって全身を使い、積極的に生きる力を養うことでありたいのです。

● 私達は、松山の地に生まれた小さな私塾です。しかし、私塾人としての経験と思い・気概・能力は、他を圧倒しています。

● 教材・tool は、自分の頭で答えを見つける力を求められてきた中学入試に対応した『四谷大塚』・10 歳までに差異がついてしまうとされる基礎能力を育てる『上里式（日本幼児基礎能力研究会)』・あいさつ英語でない方法論を持つ英語指導『MPI(松香フォニックス研究所)』、『論理エンジン』… など、超一級品ばかりを選りすぐって用意しました。(今後も「本物」だけを導入していきます。)

● 学力診断（テスト）の機能をさらに充実。算数演習・応用算数・応用理科・国語読解など授業内容もバージョンを上げました。特に算数は学習時数を増し、首都圏・全国どこでも通用する学力を養成します。（塾生が受験するテストは全て四谷大塚作成、ライバルのほとんどは首都圏の小学生です。）

● 国語読解では、文を読むスキル（誰にでも真似できる読み・書く方法）を提示し、ドリルし、論理的思考力を高めます。

● 全ての教科のもとになる「論理力」強化のため、『論理エンジン』を小学生の塾として、初めて導入。読解力・記述式対応の強化を図ります。

● 算数も全ての単元について問題文を読むスキルを指導します。ＷｉＬＬは読む「方法」を指導し､読む「方法」を「学ぶ」塾です。

●今年度から３年～６年の全塾生に１回 20 分週３回「英語」の授業を実施。発音と綴りの関係を核に「短い学習を数多く」４技能の「基盤」をつくります。

● ３年から６年まで全学年に、学習内容定着と学力練成の週・月例テスト（３年生は年８回の月テスト、４・５年生は年３０回、６年生は年２７回の週テスト）を実施、又、各学年とも年３回（６年生は６回）の学力判定テスト（四谷大塚全提携塾参加の学力テスト、６年生は合不合判定テスト）を行います。学習内容の多い５年生には、週テストと学力判定テストをつなぐ年３回の公開組分けテストを用意しました。（４・５年生は組分けテスト、６年生は合不合判定テストでクラス分けを行います。）

● 当日学習した内容を演習する『算数フォロー up』の時間を設けました。当日学習した内容を、塾生がホワイトボードに書いて「すぐ繰り返し」ます。

● がんばりが形につながり、意欲が増大し、学習のやり方を自分のものにする形をつくりました。

私達は皆 , 幸せになるために生まれ , 生きています。

● 子供達が私達の私塾に学び、より幸せな人生を送るための「生きる力」を強くしてほしい。自らの将来に向かって、自らの意志で自信を持って一歩を踏み出す力を持ってほしいと願って " **中学受験予備校 Ｗｉ（ウィ）ＬＬ（ル）** " の 17 年目を運営します。

未来をつくるのは、今眼の前にいる子供達に他ならないのです。

ウィルの使命
能力伸長を通して子供を元気にし、家庭と社会がもっと元気になる推進役になること

2

中学受験予備校WiLL は３つの“常識”と断固たたかいます

私たちは３つの " 常識 " と断固たたかいます。

第１の〝常識〟「競争がある所にのみ進歩がある」

誰もが弱点を持ち、一人として勝ち続けることは出来ない。他者との競争に勝つことでのみ自己肯定を得る子どもは一度敗者となった時立ち直ることが出来ない。音読や表現力の強化で自己肯定力を強める。自信のある子どもにする。

第２の〝常識〟「出来ないこと、困難に挑戦すれば能力が伸びる」

出来ぬことを繰り返せば、「出来ぬこと」を学んでしまう。それより「出来ることを何度も繰り返すこと」だ。計算や熟語や暗唱を大切にする。「出来ることだけ」を何回も繰り返すのが能力伸長のコツだ。

第３の〝常識〟「幼児・小学生に塾は早すぎる」

基礎能力が不足だと「詰め込み教育」をやるしかない。基礎能力の育成は小学校終了時まで。「詰め込み」をしたくなければ、幼・小の時期を逃さぬことだ。

●字が満足に読めず、語い数も不足の人に「読書の有効性」を説いても効果はありません。読書好きにするには、幼児期に必要な漢字とカナを読めるようになった上で、読書の環境をつくることが必要です。読書の習慣のない子どもに感想文書きを強いるのが**詰め込み教育**で、ますます本嫌いにさせることになります。

●記憶力を育てるのに最適な時は６歳まで、リズム感も同様です。語いを増やす訓練は小１・２が最適です。数の概念を育てるのは幼児、筋道を立てて考え、数学的に処理する訓練も小１・２が最適です。算数･数学の学習に計算力は必須ですが、計算力だけでは数学的思考は育ちません。

●これら基礎能力の育成に適した時期は**小学校終了時**までです。

●幼児・小学生の時期にしかるべき訓練を受けず、高校受験に必要だからといって中学生になってから学習を強いられることこそ「かわいそう」だと思います。

●ある一定レベルの問題を解くには、類題に多くあたり、解法を覚えるのが最良の方法ですから、試験をクリアする為にテストと問題演習だけにあけくれることになります。これが『詰め込み教育』といわれるものです。忍耐力はつきますが、想像力は増大せず、能力拡大にはつながりません。短期間の詰め込み学習で合格して、その時は成功したと思うかもしれませんが、その後の子どもの長い歴史を考えると、労多くして益は少ないのです。**私は『詰め込み教育』に対してたたかいます。**

●小３・４でやるべきは、自分にあった学習のスタイルづくりです。

〇国語はもちろん、理科・社会に関する語いを増やす方法、これは音読と繰り返し。
〇文章を読む力、算数の文章題なら文の表す意味を線分図・ベン図・グラフ・面積図など目にみえる形にする方法を身につけます。
〇ノート作りの方法も大切。
〇線引きは国語の学習に欠かせません。
〇式の利用、計算のやり方も大切です。
〇模範解答の使い方・音読の徹底もあります。

“鉄は熱いうちに打て”といいますが、３・４年生の時、これら自分の学ぶスタイルをつくれば、その後**自由自在**に情報をとりいれることができます。

●５・６年生でやることは、３・４年生でつくったスタイルで学習し、成功の体験をつくることです。未だ自分のスタイルができていない場合、**小学校卒業までには**自分の方法をつくる必要があります。

●中学・高校になって英語ができない人のほとんどが、英文を音読できません。国語の問題文に線が引けません。古文が音読できません。数学の道具が使えません。これらは中学生になって急にできる様にはなりません。中学･高校では手遅れで、身に付けることはできないのです。

●基礎能力の育成・自分の学習スタイル作りは幼児・小学生の時をはずすと困難になります。

「幼児・小学生には塾は早すぎる」という思い込みに対してたたかっていきます。

塾長メッセージ第５号（５月９日～１５日発信）から

3　「臨界期」を逃がさない教育を

カリヨン（年中～小２）は幼児・小学生の可能性を引き出し伸ばし、豊かに育む能力開発教室です。

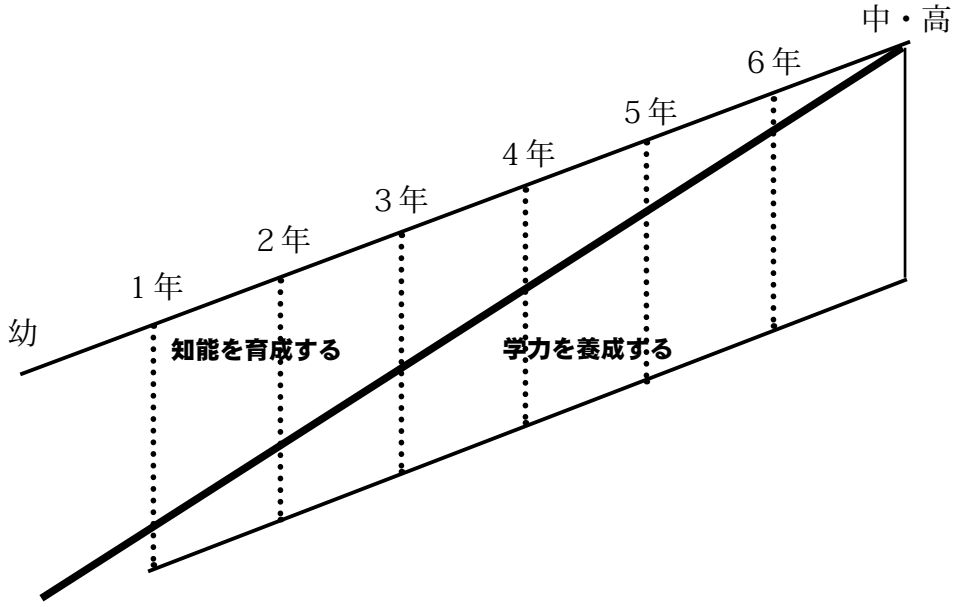
「知能」と「学力」を育てる『臨界期』がある

●能力を身につける最高の時期を臨界期といい、その時機をのがすと身につけるのがむつかしい（生まれたばかりの猫に４５日間光の刺激を与えないと視覚系の細胞が発達せず、永久に見えなくなる。４５日間が目の臨界期。）

知能育成の臨界期は小学２年まで、学力育成の臨界期は小学５、６年生。

●「知能」とは知識を習得する能力で、習得した知識を活用する能力。低学年のうちに知識と学力の基礎を十分に養い高学年でフルに発揮して学力を飛躍的に伸ばしたい。

●良いことも悪いことも、ほとんどの種は幼児・小学生の時にまかれる。後戻りはできない。



『知能育成の臨界期＝小学１・２年』をのがさない
『学力育成の臨界期＝小学５・６年』をのがさない

4

WiLL は日本幼児基礎能力研究会（ＦＡ研）の会員塾です

日本幼児基礎能力研究会（ＦＡ研）とは

ＦＡとは、ファンダメンタル・アビリティー（Fundamental-Ability）の略です。

昭和２年（１９２７年）に小学校教員となった上里吉堯先生が独自のアイデアで作り出した教材とその教育法はやがて中学校や高等学校でも実践されましたが、昭和２０年の終戦直後から幼児教育の重要性に気付き、やがて昭和２８年に創立した愛知県豊橋市の仔羊幼稚園へとその実践の場が移されました。この幼稚園における上里式裸教育や才能開発プログラムはＮＨＫをはじめ、各マスコミを通じて全国に注目されました。

この上里式教育法を更に研究し実践していくために、昭和５４年にＦＡ研が発足し、先代の思想が２代目の龍生先生に引き継がれて現在、更に発展をしています。

今では、このＦＡ研の教育法を取り入れた２００以上の幼稚園と幼児才能教室で地道に確実な成果をあげています。

●実績に基づいた効果の高い能力開発プログラムであること

幼児才能教室は全国に数多くあります。積み木、フラッシュカード、計算、言葉、手法もいろいろです。

ＦＡ研（日本幼児基礎能力研究会）の考え方・手法・教材は７５年の歴史を持ち、ほんとうに数多くの子どもに対して幼稚園や幼児教室の現場で実際に使われ、工夫が加えられ改善をされながら現在に至っています。

子どもに対する効果を見ながら作り上げられてきて、思い込み・ひとりよがりでない良さは、何ものも替わることが出来ません。

●フランチャイズを前提にした教材・手法ではないこと

全国にフランチャイズ展開をする幼児教室もあります。教材の見栄えは良いので大人うけしますが、上滑りの効果をあげるしか出来ません。

現場の実践から生まれ育ってきたものであること。それがＷｉＬＬがＦＡ研を選んで、会員となっている理由です。

WiLL は四谷大塚の提携塾です

四谷大塚は半世紀以上にわたり中学受験のための学習指導を行ってきた。
その過程で、中学受験の成否のカギが低学年教育にあることを知り、小学校低学年の学習指導を研究し、低学年教育のあり方を開発し、カリキュラムと教材を作り上げた。

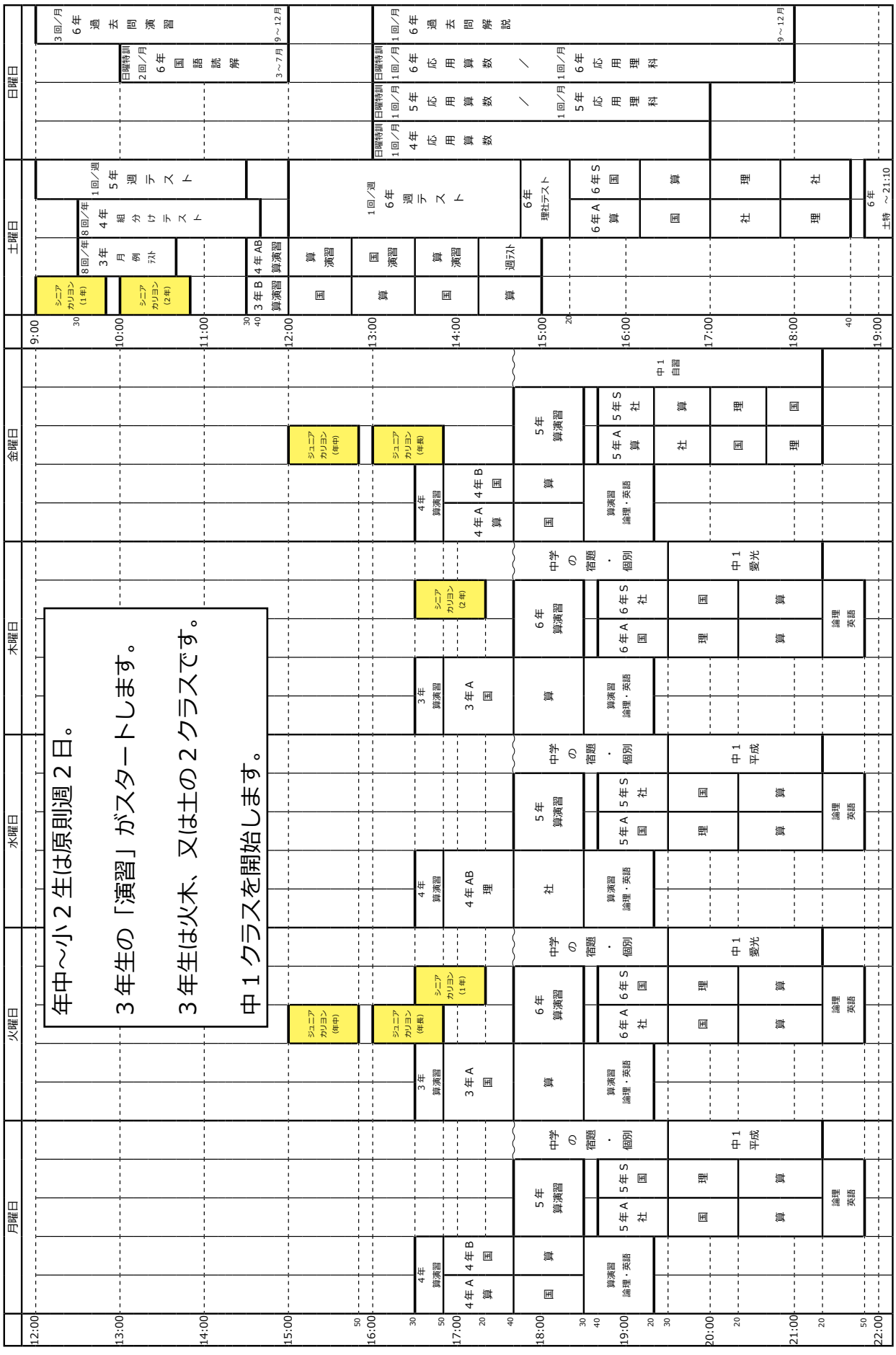
5　カリヨンとシニアカリヨンの教務概要

	対象	目標	指導	主な教材	定員	単位時間	通塾回数
ジュニアカリヨン	年中 年長	①　書く・読む・聞く・造る・動く等体全体を使い、幼児期の子どもたちの知的基礎能力（＝直感力・想像力・表現力・思考力・判断力）を育てる ②　古典のきれいな言葉に触れさせ、語彙を増やし、言語思考力・表現力を豊かにする。 ③　短時間に多数の語彙を暗記することを通し＂暗記する能力＂そのものを高める。 ④　様々な図形の操作を通し、図形の分解・合成・変形・回転・移動等の図形の概念を身につけ、直感力を育てる。 ⑤　算数の基礎的な知識や技能を身につけるとともに、見通しを持ち筋道を立てて考え、数学的に処理する能力（数学的思考力）を身につける。	○記憶力 ○数と形 ○英語 ○文字と言葉 ○数学的処置 ○論理	○ FA 研 ○ mpi の英語 ○ユニキューブ ○積木 など	5 名	50 分	週 2 回 （週 1 回も可）
シリアカリヨン	小 1 ・ 2		○上記指導 ○学校で指導する算国学習内容	○ FA 研 ○四谷大塚 ○論理エンジン ○ mpi の英語	6 名	50 分	週 2 回 （週 1 回も可）

シニアカリヨンは学校が長期休暇となる春・夏・冬に、集中的に算数・国語の学習を行う特別授業を行います。

※　「『ジュニアカリヨン』『シニアカリヨン』は何をやっていますか？」とたずねられても、「..... をやっています」とお答えしにくいのです。
松山に同じような指導をしている所はどこにもありません。是非教室においでになり、実際に体験してみてください。
（体験受講は無料です。）

6　WiLL の時間割


'19 年度時間割（4 月～）
年中～小 2 生は原則週 2 日。
3 年生の「演習」がスタートします。
3 年生は火木、又は土の 2 クラスです。
中 1 クラスを開始します。
月曜日
火曜日
水曜日
木曜日
金曜日
土曜日
日曜日

7　（年中・年長、小学１・２年生）で使用する**『一級品』**達

●好奇心が刺激され『もっと学習したい』と思うためには、『一級品の教材にたくさん触れる』必要がある。

ウィルの幼児と低学年指導『カリヨン』で使用する教材はまさに『一級品』ぞろい。経験豊富な指導者のもとでそれらにたくさん触れ、楽しく取り組むうちに「しっかり考える習慣」を身につける。

●四谷大塚　『ジュニア予習シリーズ（算数・国語）』
四谷大塚が開発した小学低学年の「知能を育て学力の基礎を身につける」教材
各科　１冊ずつ / 月　（１２カ月）

●四谷大塚　『ホームワーク（算数・国語）』
各科　１冊ずつ / 月　(家庭学習用、日付つきで学習習慣をつける)

●四谷大塚　『ちのうあそび』
２冊 / 年　　(考える力を伸ばす)

● FA 研（日本幼児基礎能力研究会）の教材 FA 研の考え方・手法・教材は 75 年の歴史を持ち数多くの幼稚園や幼児教室の現場で実際に使われ、工夫が加えられている。子どもに対する効果を見ながら作り上げられた良さは何ものも替わることができない。

・てんとうむし（全 36 冊）数と形
・すずめ　　（　〃　）文字と文章
・めだか　　（　〃　）数字と計算
・みみず　　（　〃　）線の訓練
・短冊教材　　（全 10 冊）記憶力を鍛える。
　ことわざ・慣用句・俳句
　都道府県・百人一首・熟語など
・アングルパネル（空間知覚）
・パターンメーカー（右脳・ひらめき）
・図形プリント
・図形カード
・手を使う道具　・数ゲーム　　他

●論理エンジン
「国語教育のカリスマ」 出口　汪（ひろし）さんが小学生対象につくった言語能力育成教材。

● mpi の英語教材
mpi は創立 40 周年。教材は全て小・中学校や英語教室での実践を基に研究しつくされた。
歌と絵本を中心に使います。

●・ニキーチンのユニキューブ
・みんなの積木
・季節の歌　　などのプリント

8 カリヨン・シニアカリヨンで使用する FA 研教材

上里式教材の全体は以下の通りです。

単元	教材名	指導目的	単元	教材名	指導目的
数と形	アングルパネル	空間知覚を養う（右脳）		ペリカン	日記を書く習慣をつける
	パターンメーカー	パターン認識（右脳）を鍛える。センス、ひらめき。	記憶力	一茶俳句集	・言葉の記憶力を養うとともに俳句を覚えることにより日本語の美しさ、言葉の使い方などを覚える。自分でも俳句が作れる様になる。（俳句集） ・言葉の記憶力を養うとともに、多くの言葉を知り、言葉に対する興味を大きくする（四字熟語） ・語いを豊富にし、表現のおもしろさを知るとともに、日本語の思考力を養う（慣用句・ことわざ・百人一首） ・全国の県名や主な都市名を覚えることにより、日本の地理に興味をもつようになる（都道府県・湖）
	きりん			蕪村俳句集	
	てんとうむし	数の概念を育てる。図形認識の基礎		芭蕉俳句集	
	めだか	計算力・数学的思考を養う		慣用句１	
	百玉計数機			慣用句２	
	楽しい形遊び			ことわざ集	
	碁石並べ			四字熟語１	
	九九			四字熟語２	
	数ゲーム	数の概念を身につけ、計算が正確に		百人一首	
	図形プリント			都道府県	
時計	ふくろう	時計の読み方練習、時間の概念を養う		湖	
数学的処理	アルクトゥルス	上記「アングルパネル」から「計算ドリル」までの発展編	英語	フォニックス	英語の基礎（音と文字の規則性定着）
	アルタイル		文字と言葉	季節の歌	
	アンタレス			詩の素読	
	デネブ			フラッシュカード	パターン認識を養い、文字、図形、色など様々な知識を大量・短時間に記憶
	ベガ			すずめ	文字・文章を正しく書く練習
	図形カード等			古典の素読	枕草子・方丈記など
手と目の共応	みみず	文字書き・絵描きの基礎訓練		ことば遊び	
	きつつき	共応力を養う		お話作り	
	手を使う道具	手の訓練		読書	
	折れ尺	想像表現力		もぐら＆しろくま	漢字の読み書き練習

カリヨンは、１コマ５０分の授業中に２５の学習メニューを盛り込み、集中力を持続し、基礎能力を伸長させます。

9　シニアカリヨン（小１・２）で使用する四谷大塚の教材

算数



例… 小学2年算数【分数】

12月号で「分数」の学習に取り組みます。平成23年度の学習指導要領の改訂で、学校でも小学2年生から分数を学習するようになりました。ここでは、小学3年生から始まる本格的な分数の学習の前段階として、分数を視覚的にとらえ、意味を理解することをねらいとしています。ジュニア予習シリーズでは、教材に色を塗るといった作業をしながら理解を深められるような構成となっています。ご家庭では折り紙などを使って、もとの大きさを半分（1/2）⇒ 半分(1/4) ⇒半分(1/8) にしてみることで、理解を深めましょう。ジュニア予習シリーズでは１つの方法を提示してそれを作業として覚えさせるのではなく、さまざまな手段の中から問題や状況に合わせて適切な方法を選び、問題解決できる力の育成を目指しています。

国語



例… 小学2年国語【長文読解】

小学１年生では文章に親しむことを重視しながら学習していきますが、小学２年生ではそこから更に一歩踏み込み、話の中での物事の移り変わりや登場人物の気持ちにも触れながら、楽しんで読めることを目標に取り組んでいきます。物語は「いつ」「どこで」「だれが」「どうした」という４点から場面をとらえ、あらすじをつかむことが大切。文章量もぐんと増え、手ごたえ十分です。文章読解の学習だけでなく、漢字・慣用句などの言語要素の学習ももれなく行います。

毎日の学習の習慣化に役立つ「ホームワーク」

算数・国語の「ホームワーク」は、毎月1冊ずつ、年間で各12冊。1日1ページで365日分、日付も記載してありますので、家庭学習の習慣化にも役立ちます。基礎力の定着はもちろん吟味された良質の問題は手ごたえも十分です。当月分の学習内容だけではなく、忘れたころにまた確認できるよう考え抜かれた復習問題など、毎日バラエティに富んだ問題を出題しています。



小学2年生の毎月楽しいミッションにも挑戦します。小学2年12月号ではクリスマスに関係あるものを折り紙で作ります。



国語のホームワークには世界の名作が表紙の絵に登場します。小学2年生12月号は「雪の女王」。お子さまの読書への興味を引き出します。

10　シニアカリヨンで使用する『論理エンジン』

論理エンジン キッズ

学習塾や中学校・高校で次々と正式採用されている
『論理エンジン』に待望の小学生版が登場！
小学生低学年からでも「論理」を学べる、
画期的な問題集です！！

全冊子、全ページフルカラー









論理的な読解力・思考力・表現力は、2020年度開始の「大学入学共通テスト」や公立中高一貫校の適性検査、全国学力テストの「国語B問題」などの問題を解くために欠かせない能力です。
『論理エンジンキッズ』は、小学生低学年のうちから論理力を身につけるための仕掛けが満載！他書では学べない革新的なメソッドが盛りだくさんです。

11　カリヨン・シニアカリヨンで使用するｍｐＩの教材



沿革

1979　松香フォニックス研究所（MPI）設立

1980　MPI英語教室開校

1981　MPI全国研究会（The AJSG）発足

1987　MPI教材中国語版出版（台湾ケーブス社）

1995　MPI教材韓国語版出版（韓国パンムン社）

1997　海外セミナー「日韓英語教師交流研修会」（韓国・ソウル）開催

1998　海外セミナー「MPI　オーストラリア・コミュニケーション体験ツアー」（オーストラリア・ブリスベン）
海外セミナー「MPI　日韓英語教師交流研修会　'98」（韓国・ソウル）

1999　Dr. Phonics English Academy との共同事業開始

2000　（株）正進社との共同事業開始
文部省委託「地域で進める子ども外国語学習推進事業」として「Hello, Kids!」プログラム開始

2001　「英語のできる12歳」（所長松香洋子著）が日本図書館協会認定図書に選定される

2002　文部科学省後援パネルディスカッション「小学校英語が日本の子どもを元気にする」全国8カ所で開催
MPI「小学校英語サポートシステム」展開

2003　NPO小学校英語講師認定協議会設立　理事及び認定委員に松香洋子が就任
資格認定登録団体第2号
学校図書株式会社との共同事業開始

2004　MPI創立25周年記念大会「教育は未来を築く子どもたちのために」開催　500名参加
松香フォニックス研究所・MPI英語教室　東京都渋谷区代々木2-16-2（現在地）へ移転

2005　教材『Gorsch the Cellist』が宮沢賢治学会より「イーハトーブ賞奨励賞」を受賞
「学校と民間との協働プラン開発事業」（埼玉県教育委員会）協力団体として採用決定

2004　MPI創立25周年記念大会「教育は未来を築く子どもたちのために」開催　500名参加
松香フォニックス研究所・MPI英語教室　東京都渋谷区代々木2-16-2（現在地）へ移転

2005　教材『Gorsch the Cellist』が宮沢賢治学会より「イーハトーブ賞奨励賞」を受賞
「学校と民間との協働プラン開発事業」（埼玉県教育委員会）協力団体として採用決定

2006　小学校英語サポート事業 支援校2000校突破
読売新聞社後援「パートナーkidsコンテスト」及び「MPI英語教育フォーラム」を各地で開催

2008　所長松香洋子 が英国国際教育研究所第1回国際言語教育賞「ことばと教育」児童英語部門伊藤克敏賞受

2014　株式会社mpi松香フォニックス（現社名）に変更
「朝日小学生新聞」で『音の出る新聞　朝小えいご塾』（mpi監修）の連載開始
スマートフォンを紙上にかざすと英語の歌や動画が流れる学習コンテンツを開発
「朝日Weekly」にて『親子で学ぶキッズ英語』（mpi監修）の連載開始
創立35周年記念イベント開催(1200名参加)
大阪府より府内小学校向けの新しい英語学習パッケージ開発業者として選定される

2015　総務省「先導的教育システム実証事業」のコンテンツとして、
教材「Superstar Songsシリーズ」「動くシリーズ」が導入される
「―小学校英語―英語モジュールＤＶＤ」の導入校が150校突破
朝日小学生新聞、朝日Weeklyの監修を継続

2016　神奈川県大和市の「英語教育推進業務」に採択される
大阪府教育委員会とmpi松香フォニックスが共同開発した
プログラム「ＤＲＥＡＭ」（大阪府内向け）を、
大阪府以外では「小学校英語　ＳＷＩＴＣＨ　ＯＮ」として
mpi松香フォニックスが販売開始

2017　一般社団法人 日本記念日協会より認定を受け
の「文字」と「音」の関係を学び、
正しい発音を身につける「フォニックス学習法」の記念日として、
「4（フォ）」「2（ニ）」「9（クス）」の語呂合わせから4月29日を
「フォニックスの日」として制定。
ソフトバンク C&SとSWTICH ONIのアプリ版を共同開発
（株）明光ネットワークと明光みらいの小学生向け英語アプリを共同開発

2018　(株)イーオンホールディングスの株式を取得し
DDIグループに参画
創立39周年記念イベント開催
明光ネットワークジャパンと共同開発した
小学生向け英語学習プログラム「明光みらい英語」が
第15回日本e-learning大賞にて「英語4技能教育特別部門賞」を受賞

12

中学受験予備校 WiLL の時間割・受講料など

（’19 年度時間割 ）

対　象		曜　日	時　間
ｼﾞｭﾆｱ・ｶﾘﾖﾝ	年中	火・金	15：00 ～ 15：50
	年長	火・金	16：00 ～ 16：50
ｼﾆｱ・ｶﾘﾖﾝ	小１	火・土	火 16：30 ～ 17:20　土 9：00 ～ 9:50
	小２	木・土	木 16：30 ～ 17:20　土 10：00 ～ 10:50

◆カリヨンは、週２回（週１回も可能）。

（週１回の場合は都合の良い曜日を選んでいただきます。）

対　象	曜　日	時　間
小３	火・木クラス	16：50 ～ 19：20 (演習 16：30 ～ 16：50)
	土曜クラス	12：00 ～ 15：00 (演習 11：30 ～ 12：00)
小４	月・水・金	16：50 ～ 19：20 (質問 16：30 ～ 16：50)
	土（演習と週テスト）	12：00 ～ 15：00 (質問 11：30 ～ 12：00)
小５	月・水・金	17：40 ～ 21：50 (演習 17：40 ～ 18：30)
小６	火・木	17：40 ～ 21：50 (演習 17：40 ～ 18：30)
	土	15：20 ～ 18：40
	土曜特訓	19：20 ～ 21：10
	日曜特訓	9：00 ～ 18：00

◆小３の『演習』は、算数中心の基礎演習・質問受け
◆小４の『質問』は、算数中心の質問受け・基礎演習
◆小４の『演習と週テスト』は、原則全員受講。算数・国語の正規授業と考えて下さい。得点力を向上させます。
◆小５･小６の『演習』は、全員必須受講。算数の正規授業と考えて下さい。復習定着の時間です。
◆『勉強部屋』……家庭学習の習慣をつけるための
（自学）個別学習（家庭での課題をする）
…<月曜　～　金曜>　いずれも（19：00 ～ 21：00）
◆小６は４月より土曜特訓（19：20 ～ 21：10）、９月より日曜特訓（9：00 ～ 18：00）有り。内容：基礎事項定着と過去問の解説・演習
◆選択制の「応用算数」(小４・５・６)・「応用理科」(小５・６)（月１回・日曜 13：00 ～ 18：00）有り。
「国語読解法」（小６）有り。（いずれも応用・発展内容）

テストの実施日時

（4・5・6 年）週テスト

・実施日は別紙

毎週 土曜	4 年	14：15 ～ 15：00
	5 年	9：00 ～ 11：30
	6 年	11：50 ～ 15：00

（3 年）月カリキュラムテスト

・土曜日（日時は別紙）

公開模試・講習会判定・公開組分テストなど

・その都度連絡

’19 年度通常授業受講料金（税込）

◎入塾金　**22,000** 円

（兄弟姉妹が在籍の場合　２人目以降は 5,500 円）

対　象			料　金
カリヨン	年中・長 小１・２		週２　**17,700 円** （週１　**13,300 円**）
平成愛光塾	小３	火木クラス 土曜クラス	**19,900 円**
	小４		**27,500 円**
	（水土クラス生・・・算国自宅学習＋ウィルで演習・週テスト）・・・**27,500 円**		
	小５		**30,800 円**
	小６		**33,000 円**

◎受講料の減額

●兄弟姉妹が在籍の場合、２人目以降
（小４生以上に同時在籍の場合）**10,200 円 / 月**
（上記以外）　**5,100 円 / 月**
減額とさせていただきます。

◎教材費

●カリヨン・シニアカリヨン……**3,600 円 / 月**
●小３～小６…実費（『使用テキスト一覧』をご覧下さい）
※半期ごと（前期～８月、後期９月～１月に前納をお願い致します）

◎演習受験料

●演習……（４・５・６年）　**6,700 円 / 月**
（３年）　**4,600 円 / 月**
※半期ごと（前期～８月、後期９月～１月に前納をお願い致します）

◎『勉強部屋』……週１日　**5,500 円 / 月**
（希望による）　週２日以上　**11,000 円 / 月**

◎「応用算数」「応用理科」「国語読解法」
（希望による）……塾生　**22,000 円 / 半期**
一般生　**27,500 円 / 半期**

◎テスト受験料（細目は“ウィルの実施するテスト”を参照）

●月例テスト（３年）　学力判定（４・５年）
公開組分（４・５年）　合不合判定（６年）
……四谷大塚の定める受験料

●《ウィル》
週テスト（５・６年）……　**1,700 円 / 回**
週テスト（４年）……演習受講料に含む

授業料等の納入は口座振替を利用していただきます

13 「臨界期」を逃さない教育のすすめ

「知能の基礎部分は 10 歳までにほぼ完成する

「教育」の役割は、「生きる力」、「人として生きる能力」をつけることですが、その「教育」はいつ開始されるべきでしょうか？小学校に入学した時でしょうか？

言葉の取得、必要なだけの体力・運動能力、他人と過去と未来を想う想像力、読書力、リズム感、直感力、記憶力……。

これら『基礎能力』は、人の一生を決定するほどの重要な能力であり、１０歳までに完成してしまうといわれています。

これらの能力の開発を「小学校に入って学校におまかせする」ことはできません。井深大さんが言うように「胎児から」「０歳―教育の最適時期」であり、親による環境づくり、刺激・体験を与える時機と方法が問われることになります。

日本の学校はとても優秀で、大きな役割を果たし、今も果たしています。しかし、優れているが故に「学校にまかせておけば大丈夫」「まだ学校で習っていないから、それ以上やる必要はない」と、学校に過度に依存する姿勢を生みました。また逆に、「学校で６年生がやることをこの子は２年生でもできる」といった早教育の害も生んだのです。

「我が子の教育の内容と時機に関する責任は、親にある。」あたり前のことが、今問われています。

臨界期

脳生理学では『臨界期』という言葉をよく使うそうです。しかるべき時期に刺激を受けなければ、機能が正常に発達しない。その「しかるべき時期」のことを「臨界期」というのです。

例えば、生まれたばかりの猫に目隠しをして、そのまま４５日間、光の刺激を与えない。そうすると視覚系の神経細胞は発達せず、ついに永久にものが見えなくなる。この４５日間が、猫の目にとっての臨界期という訳です。

人の能力の開発・発達にも『臨界期』はあります。記憶力・音楽的能力・計算力・運動能力……。胎児の時、０歳の時、３歳、その時々に必要な刺激を与えるのが親の仕事・教師の役割です。

直感力・記憶力などの臨界期は、９歳までといわれます。その時期に能力を開発することをせず、１５歳・１８歳になって「なかなか覚えられない」と悩むことのないようにしたいものだと思います。

「治療」と「予防」

我々は実に『治療好き』で『予防嫌い』ですね。虫歯にしても風邪にしても、「こうすれば風邪になりません。」の意見よりも、「こうすれば風邪がすぐ治る」方法伝授に耳を傾けます。保険制度の危機的状況も『治療好き』『予防嫌い』が生んだものでしょう。

子育て・教育も同じようです。塾通いも『予防』の為ではなく、『治療』の為にこそ必要とされていて、入塾の時には、入塾テストや面談を行い、「治療すべき箇所の発見・親と子と教師の共有」を行うのが通例です。

風邪ならひいただけ体に抵抗力がつくかもしれませんが、子育て・教育には、失敗・やり直しが無い方がよいのです。特に１５歳くらいまでの間には「挑戦・成功・発見の体験」をなるべく多く、「失敗の体験」をなるべく少なく、が鉄則です。

１５歳からの『失敗』に対して復元できる「自分の型・基礎体力・基礎学力・基礎能力」をつくるのが幼児・小学生の基礎能力開発の役割です。

我々は『予防好き』の皆様の参加をお待ちしております。

「平等」と「能力差」

「人は生まれながらに平等だ。」「子どもは皆等しく無限の可能性を持つ。」我々は無意識的に、全ての人間は等しい能力を持って生まれたことを前提にしているようにみえます。

我々は「能力差」の問題にはできるだけ目を閉じていこうとする強い傾向を持ち、時として「能力差」の問題をタブーとしてきました。しかし、世界的な視野でみるとそうではない。現在の日本の小学校に落第のないことを不思議がり、「そんな**不親切**な教育をして良いのか」という欧米の人々（欧米の小学校には飛び級と落第制度がある）は、強い違和感を持つのが普通です。

事実、明らかに「能力差」は存在します。学校教育スタートの小学１年生ですら、それぞれの持つ能力には違いがみられ、それぞれの能力ごとに個人差があるのです。

わが子の得意、わが子の持つどの能力を伸長させるのがその子の創造的な生き方につながるのか判断し、大いに能力を伸長させるべきです。それが自己実現につながります。

９歳ころまでは基礎能力を伸長させる機会を多くもちたいものです。**「能力差はある。それを認めよう。」「能力は時機を得た教育・訓練で伸長することができる。伸長されるべきだ。」**

子育てワンポイント　日本幼児基礎能力研究会会長（仔羊幼稚園園長）上里龍生先生のお話から
子どもに話しかけるときには

どこかの育児書に「子どもと向き合って、目を良く見ながらゆっくりと話し掛ければ小さな子どもでも良く分かります。」などと書いてあるのを見たことがありませんか？

じつはこれは全くの勘違いです。小さな子どもは、これでは何を言われているのか理解することが出来ません。向き合って目を見つめ合っても、小さな子どもとはコミュニケーションできません。それに、ゆっくり話したら、小さな子どもほど、その内容を理解できなくなってしまうのです。小さな子どもに話し掛けるコツは「接近していること」「同じ方向を向いていること」「早口で話し掛けること」の３つです。育児書に書いてある話し方は老人に向かって話し掛ける方法なのです。子どもを後ろからそっと抱いて、耳元で小声で早口に話し掛けてごらんなさい。驚くほど子どもは素直に聞いてくれるでしょう。これで親子のコミュニケーションはバッチシです。

幼児教育の原則　「幼時鍛錬」（上里龍生 監修　川村史記 著）より
『より早い時期』とは

我が子を競走馬のように勉強の競争に駆り立てる、いわゆる教育パパやママは、Ａさんの子どもが三歳でピアノを習い始めたと聞けば、負けてなるものかと二歳の我が子にバイオリンを習わせ始めるとか、Ｂさんの五歳の息子が小学一年生の国語の教科書を読んでいると読んでいると聞けばあわてふためいて、幼児に小学生並みの学習指導を提供する英才教育塾へ入塾させようと必死になるなど、そのご乱行は目を覆うばかりですが、このような先取り教育は、上里先生が最も忌み嫌う教育の一つです。上里先生は『より早い時期の教育』について、次のように述べています。

「より早い時期とはどういう意味でしょうか。例えば、自分の目の前にいる子どもを見て、この子には今、こういう教育をしなければならないと気付いたとします。では、いつからその教育を始めたらよいのでしょう。明日にしましょうか、来年からにしましょうか。もし、来年からやりましょうと言えば、その教育は一年遅れることになります。来月からやりましょうと言えば一ヵ月遅れます。明日からやりましょうと言えば一日遅れるということです。つまりこれは全て手遅れです。教育とは気付いたその日その時にやらなければなりません。このことを『より早い時期』という言葉で表現しているわけです。」

つまり、「この子はピアノを習いたがっている」と気が付いていても一週間後から始めれば一週間の手遅れを作ってしまったと言うことです。上里先生は「植木鉢の花が萎れかかっているのを見て明日水をやりましょうと言ったらどうなりますか。今、肥料を与えるとよい花が咲くだろうと思っても、一週間待ったらどうなるでしょう。」と言っていますが、今が丁度施肥するときだと気付きながら怠ったら、よい開花もよい実りにも結びつくはずがありません。その意味では、先取り教育に血道を上げるのではなく、子どもを見て教育のチャンスを逃さないことが大切なのです。

INTERVIEW

カリヨンのお母様方にお尋ねしました。

「『カリヨン』はどんな教室ですか？お子様の様子はどうですか？」

「字は以前から読めてはいたんですが、書くのは好きじゃなかったんです。今ではひらがなもカタカナもどんどんすすんで書くようになりました。書くのが楽しいようなんです。イキイキとレッスンを受けているのを見てうれしくなります」（年長）

「５０分間の授業中、子どもを飽きさせないのがスゴイ。ワーク中心でなく指先も使い、声も出し、英語もやる。みんなと一緒に体を使うのがいいんでしょう。勉強だけじゃなく、スポーツも一生懸命やり続ける子になってほしいですね」（年中）

「今の幼稚園は、机の前に座るということがありません。どこでもいい、好きな所に座りなさいと言われます。自分の場所があって、その場所で何かするということがないんですね。カリヨンに来るとめいめいに机と椅子があり、その上でノートをひろげて何かすることが楽しいと思えるようになりました。自分の場所にすわることが習慣になって良かったと思います」（年長）

「カリヨンに来るまでは集中するということができなかったのに、ノートを１ページか２ページ書く時間くらいは集中できるようになりました。『カリヨン続ける？』と聞いたら、『続けてやりたい』と自分からすすんで来るようになりました。続けてよかったと思います」（年中）

「ふと思い出したように、『塾の勉強する』と言って教材を出してきます。面白くなってきたみたい。意欲が出てきたみたいです。家にいるとまだ赤ちゃん扱いされるのに、ここへ来ると親以外の人にいろいろなことを教えてもらって、習ったことを他の人に言ったら反応があって、そんなことがうれしいんですね」（年少）

「漢字や詩に興味を持ってきました。四字熟語や慣用句をテンポよく読んでいくのがいいようです。テンポがいいと覚えやすいので、記憶力の訓練にもなりますね。やわらかい頭で、ものごとをいろいろな方向から見ることができるようになってほしい」（小１）

「入学準備の為に通うようになりました。以前通っていた他の教室は嫌がっていたんですが、ここは来るのが楽しいんです。数字に興味を持って、習ったことを自分なりに発展させて足し算をしたりしています」（年長）

「もともと丁寧にやる子でしたが、計算が正確で速く出来るようになりました。学校の先生にクラスで一番ですと言われてびっくりしました」（小２）

「２年生にもなると苦手なこともあるようですが、授業のテンポで、ついやってしまうんですね。やったらできるので、今度はやってみようとする。そんな様子ですね。集団でテンポよくやるのがいいんでしょう」（小２）

「家での様子が全然ちがいます。一番大きな違いは数字に敏感になったこと。このあいだもお店へ一緒に行ったとき、２の数字を見て二の段の九九を言い出すんです。二七、二八はまだ言いにくいんですけどね。あれは３だ、５だ、と目に付く数字はのがさないんです」（最年少）

「実際の幼稚園に使われてきた教材だと、安心感があります」（年中）

「ほかの教室に通っていた時、いやいや続けさせていると、とうとう習い事に対する拒否反応を起こしてしまいました。これは困るのでやめたのですが、カリヨンには喜んでくるので安心しています」（年長）

「５０分間集中してやれていることに驚いています。親のかわりにやってくれるというふうに教室のことを考えたとき、安心して任せられると思っています」（年少）

「声を出して、俳句や四字熟語や慣用句を覚えたり、音読することはとても良いようです。集中力もつき、口について出ることがしばしばです」（小１）

「言葉に出すことはないけど、カリヨンは楽しみにしています。宿題も家でちゃんとして、責任感が出てきました。幼稚園の課題も日記も、積極的にやるようになりました。好奇心も強くなったと思います」（年少）

「始めは行かされているという感じがあったけど、今は自分自身がやっている。自分がやりたいと思っているように感じます」（年長）

「算数・国語だけでなく、文字・計算・図形・言葉・英語と、幅広く勉強するのがいい。英語の発音なんか、私がハッとするくらいいい音を出してびっくりしました。いい音を聞き分ける耳があるんですね」（年少）

中学受験予備校 WiLL の主なスタッフ



塾長
原　信也
（算数・幼児・論理担当）

●母校愛光学園で教育実習、母校の教師を志望するも「社会科」の募集はなく、「仮」の就職先のつもりで、愛光・早稲田大通しての先輩（二神能基氏）の経営する二神塾を選んだ。
●早大在学中、家庭教師として指導した生徒は紹介が拡がって 11 人。二神塾に入って「塾教師」は天職かとも思った。
●いきなり中学受験小６生の社会科を担当、「教材もテストも自分で作れ」と言われたのにはびっくりしたが、生徒は優秀で自分からすすんで学習する、大いにやりがいも感じた。小学生の算数・国語・社会、中学生の英語の指導を担当する他、当時二神塾幼稚舎にいた２人の外国人と一緒に sunmate という英語教室の運営もする、「進級テスト」の教材づくり、テストづくり、テストの実施の指揮もとった。
●昭和 54 年、二神塾の中学部門を運営する会社として「寺小屋」がつくられ、９月に移籍した。
●「寺小屋」の成長は著しかった。スタート５年間で教場は５、塾生は 1,000 名を超え、10 年目教場は 15 を超え、塾生は 5,000 名に達した。15 年目になると、教場は 37、塾生数 10,000 名になった。
●多忙を極めた、毎年３～４の教場がつくられ、英才部門・高校生部門、カルチャー部門が独立し、野外活動の拠点がつくられた。８年目からは、役員として教場の運営、新教場開設の準備の他に、中学受験部門の独立たちあげ、宣伝広告、講演会など広報活動、教材・テストの作製、人事、運営管理、企画など多くの業務を担当した。平成 12・13 年は、１：２個別のたちあげを担当するかたわら、ライフワークと考えている、幼児の基礎能力開発と、幼・小の英語教室のスタートを行った。
●学習上のつまり・悩みを除いて改善していく、つまり“治療”も塾の大切な役割だが、基礎能力をつけ、つまりをなくする、悩む様になっても自分の内側に問題解決能力をつける、つまり“予防”も塾の大切な役割と考え、予防のための塾をつくりたいと念じている。
●’０２年２月、総合学習塾「寺小屋グループ」を退社、幼児と小学生だけを対象にした塾ＷｉＬＬを創る。息子２人（建設会社勤務、都銀勤務）

田中　翔
（理科・算数担当）

●阪神大震災の年に中学受験、予定していた灘中は受験できず。進学した愛光中は阪神からの生徒で一杯だった。
●「国語の教師」と思い大学を選んだが公教育は適所ではないと判断。「ウィル」に出会い、参加し、「私塾」こそ「我が場」と知った。

田中　薫
（社会・算数・中学英数担当）

●愛光中・高 OB。
集団指導・個別指導・家庭教師……。
大学受験・高校受験・中学受験……。
いろいろな生徒と出会って指導。
「ウィル」に参加する。

池田　幸子（国語担当）

●大学（松山大）卒業後、寺小屋グループに入社。６年間小学生の国語・社会・中学生の英語を中心に指導、中学受験生も多く担当した。平成 10 年にいったん退社するも、幼児能力開発教室の講師として、請われ復帰。幼児と小学生の塾ウィルのたちあげに参加。

篠原　さえ（幼児（カリヨン）指導担当）

●七田チャイルドアカデミーの教室を 20 年以上運営。昨年は『EQWELL』のたちあげに参加。
今年度から WiLL で中学受験につながる幼児教室の運営を手がける。